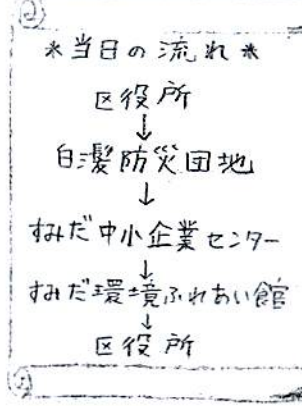


中学生 区議会新聞

発行日 2013年10月29日発行
 発行者 岩井(2-1) 長瀬(2-2)

事前研修に行きました
 区内の中学校の生徒会役員が22名参加し、吾ニからは、
 ☆2年2組 長瀬 勇太
 ☆2年1組 岩井 香野子
 の2名が代表で参加しました。
 今回は「環境」「まちづくり・防災」「産業・観光」のテーマに沿って施設を見学しました。

施設を見学したら、思った事や疑問に感じた事を作文にまとめて区に提出します。そして選ばれた作文を、区長の前で読みます。
 見学に行くと、学んだことを、この新聞にまとめました。



田地下に飲料水?!

自衛防災団地は、名前の通り防災に適しています。例えば市街地で火災が発生した時に団地が防火壁の変わりになり、大規模にならないうようにしたり、団地の住民の避難スペースである東自衛公園等への熱風の吹き込みを防ぐために各住宅のベランダに防火シャッターが付いています。
 災害が起ると、周辺地区の人々が避難して来たとき、団地の下にある貯水槽の水を人々に与えていると便利です。貯めている水は雨水で、それを浄化し、普段は風呂の水や水道用として使用している。貯水槽には、エピソードも。消防用のタンクもあるそうです。エピソードは、救急隊員用に、ベッドと一緒に入るよう、長めになっていたり、発着機が、ついても電気を使えたりとまさに防災団地で

すみだのものづくりがなくなってしまう!!

中小企業センターには、機械や製品がたくさん置いてありました。その数なんと20種類の中にも、フェンリよりも高い額の機械が揃っていました。それを、センターは皆に1時間数百円で貸し出しているそうです。
 しかし、墨田区の「ものづくり」は今ピンチ状態です。区内の製造業者の年齢が65歳以上の方が増えています。また、高年齢化です。そのため工場が年々減少し、このままいくと、2030年には区内の町工場がなくなってしまうそうです。
 が、中小企業センターでは、後継者の人材を増やすため、講習会なども積極的に開催しているそうです。

中小企業の中では、「フレキシブル工場」という魅力的で働きがいのある工場を認定して、現在は、26社の工場が認定されています。

雨水のかたちはアンパン型

環境ふれあい館では、多くの環境についての資料がたくさんあり、特に、雨水利用について、説明を受けました。雨水タンクに雨水をためておくといういろいろなことに利用できます。例えば洗車、打ち水、トイレなどです。そして災害時には、消火や浄水も使えます。水にも変わります。都内には、年間に使われる水道水を上回る量の雨が降っています。この豊かな水資源をただ捨てるというのはいけません。墨田区では30年前から雨水を生活かす運動に取り組みしています。学校にもタンクがあり、説明を受けました時、ある職員の方が雨水の形についてみんなに質問をしました。そこで私が答えが出たのですが、両粒浮遊装置という機械で実験をしたところ、結果は、あんぱん型でした。雨の形とまだ知らない所が、はいりました。ちなみにスリランカの雨水タンクは、雨水がら七も入るそうです。

この事前研修を行って、墨田区の知らない事が学べたいい機会でした。「防災」のこじや「雨水」とから墨田の「ものづくり」のこじを改めて考えさせられました。
 2年1組 岩井 香野子
 この事前研修に行って、中小企業の歴史や現在の取り組みがよくわかりました。墨田区の中小企業の数が減っていたのは、とび驚きました。
 2年2組 長瀬 勇太

★クイズコーナー★

Q1 今回の区議会のテーマは何? 3つあります。

Q2 2030年には、すみだの何がなくなってしまう?!

正解は一番!

この事前研修を行って、墨田区の知らない事が学べたいい機会でした。「防災」のこじや「雨水」とから墨田の「ものづくり」のこじを改めて考えさせられました。
 2年1組 岩井 香野子
 この事前研修に行って、中小企業の歴史や現在の取り組みがよくわかりました。墨田区の中小企業の数が減っていたのは、とび驚きました。
 2年2組 長瀬 勇太